

「平成26年度独立行政法人医薬品医療機器総合機構契約監視委員会（第3回）」

議事概要

I 日 時

平成26年12月17日（水） 15:00～17:40

II 場 所

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 6階 会議室1～3

III 出席委員（敬称略）

中村 洋（慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授）

松田 憲二（有限会社マツダ・ビジネス・コンサルティング 代表取締役）

和田 義博（公認会計士）

疋田 英一郎（独立行政法人医薬品医療機器総合機構 監事）

大塚 美智子（独立行政法人医薬品医療機器総合機構 監事（非常勤））

IV 議 題

- (1) 1月から3月末日にかけて入札公告又は契約締結を予定している案件にかかる事前点検
- (2) 一者応札・応募等改善に向けての取組について
(2か年度連続して一者応札・応募となった案件のフォローアップ及び公募等における契約額についての報告)
- (3) 前回までに審議した調達予定案件に係る契約締結状況

V 議事内容

- (1) 1月から3月末日にかけて入札公告又は契約締結を予定している案件に係る事前点検及び一者応札・応募等改善に向けての取組について（2か年度連続して一者応札・応募となった案件のフォローアップ及び公募等における契約額についての報告）

標記について審議及び報告が行われた。

委員からの主な質問・意見及び当機構の回答	
質問・意見	回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予定価格設定においては、その精度を上げる努力を引き続き行うこと。 ・ 複数年契約をする場合、そのリスクも考慮した上で、合理性を説明できるようにすること。 ・ 総合評価落札方式における評価基準書は、評価項目をシンプルにすること。また、評価項目の重要度が分る配点にする（軽重をつける）こと。 ・ 発注先がPMDAのOBが再就職している企業となる可能性がある場合には、透明性を高める契約形態にすること。 ・ 一者応札解決策は、公告期間の延長が奏功する事案なのかも考慮した上で効果のある対策を講じること。また、一者応札になる可能性が高い場合は、予定価格の設定を厳格に行うこと。 ・ 海外メーカーからの調達に関しては為替リスクも考慮すること。 	<p>ご意見のとおり努めて参りたい。</p>

- (2) 前回までに審議した調達予定案件に係る契約締結状況（報告事項案件）

標記について報告が行われた。